

---

**魔法少女まどか マギカ 歴史を見届けるもの**

黒忍者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女まどか マギカ 歴史を見届けるもの

### 【Nコード】

N6777Y

### 【作者名】

黒忍者

### 【あらすじ】

光の国の戦士が地球を守ってからいくらかの時間が過ぎたとき、歴史を見届ける戦士がやってくる。

## EP1 違う地球（前書き）

この作品を開いていただきありがとうございます。

最初に、この作品の主人公は必ずしも正しいとは限りません。

まどか達の味方とも限りませんし、恋愛要素を入れる予定もありません。

何より作者の文章力から見苦しい箇所が多々あると思いますがそんな作品で良いという方はどうぞ御付き合ってください。

## EP 1 違う地球

多くの生命が住む星“地球”。そこから遠く太陽系も銀河系もこえた宇宙にある惑星の一つ“歴史の国”。

そこで二人の男が話し合っていた。

「地球……ですか？」

自分の上司から話を聞いたとき男は思わず聞き返した。

「うむ、君もその星の名前は知っているだろうし噂くらい聞いたことがあるだろう」

「有名ですからね」

男自身も噂などはよく聞いていた。宇宙に浮かぶ宝石のように美しい星だと。

「その星に行ってもらいたい」

「なぜ？そこは昔から光の国の戦士が守ってきた星では？」

自分たちの国からそう遠くないもう一つの国“光の国”。M78星と呼称されている星の戦士達は昔からこの地球という惑星を守ってきた一族だ。もちろん彼らが守るのは地球だけではないがそれでも優秀な光の国の戦士は地球を訪れている確率が高い。宇宙警備隊の隊長や教官も訪れたことがあるらしい。だからこそ男は疑問を持った。彼らに任せておけばよいのでは？ という疑問である。しかしその疑問を分かっていたかのように男の上司が説明する。

「うむ……しかし、光の国の戦士が守るのは光や希望といったものだ。それに対して我々は――」

「歴史を見届ける戦士、ですね」

「その通り、正しい歴史を見守るのが我々の使命だ。しかし最近になってその星の周囲に歴史の矛盾点がいくつも見つかった」

「それで私が？」

この段階でようやく男は理解した。要するに自分たちの力が必要とされているのである。ならばその要望に答えるのが彼ら歴史の国の戦士である。

「うむ、行ってくれるかね」

「もちろん、それが私達は歴史の国の戦士の使命ですから」

男は即答しその場から消えた。

「“地球”か。たしか“ニンゲン”って言ったかな。知的生命体の名前は」

男は広大な宇宙空間を太陽系へと移動しながら呟いていた。彼らの種族、つまり歴史の国の戦士は光の国の戦士と違い、変身能力を持っていない。しかし肉体は光の国の戦士と同じように頑丈であり宇宙空間でも活動が可能である。

「しかし今になって歴史の歪みか……何かが干渉している可能性が高いな……」

男が聞いている話では最後に地球を守ったのはメビウス（地球ではウルトラマンとよばれているらしい）という光の国の戦士らしい、それから結構な時間が経っている。それなのに今になって歴史の歪みが出てくるのはどうも不自然である。場合によっては異星人との戦闘になるかもしれない。そんなことを考えながらも太陽系にたどり着いた男は目的の星を見つける。大きな太陽の光を受け青く光る星。

「あれが地球か……確かに美しな、光の国や歴史の国とは違った輝きを持っている。生命の輝き……光の国の戦士が守ろうとするのも無理はない。多くの侵略者が奪おうとするのもな」

初めて見る星にしばし見とれていた男だったがふいに違和感を覚える。

「歴史の歪みか……わずかだが確かに感じるな」

永い間宇宙の歴史を見守り続けてきた一族だからこそ感じる事ができる歴史の歪み。自らが使命を負った原因。何はともあれ自分のやるべきことは決まってる。そう自分に言い聞かせ男は地球に降りようとすする。

「つなに!？」

唐突に大気圏に入ろうとしていた男の体が引つ張られる。困惑しながらも目を向けた先には宇宙が醸し出す黒ではない、宇宙を旅するものにとっては出会いたくない存在、光さえ抗うことのできない闇の竜巻があった。

「ブラックホールだと?! 馬鹿なっ、なんで今まで気付かなかつた!」

男は予想もしていなかった。そもそもこんなところにブラックホールがあったらことは自分だけではすまない、この太陽系自体もただではすまないだろう。しかし現実にはそこには男を吸い込もうとしている巨大な闇がある。

「ぐ、振り切れない?! こいつ俺だけを吸い込もうとしているのかっ」

もはや一切の余裕はなかったが、よく周りを見てみると闇に吸い寄せられているのは自分だけであり周りの星にはなんの異常もない。この時点で既に男を吸い込もうとしている闇がブラックホールかどうか怪しいものだがそれでも異常なものには変わらない。

「くそっ仕方がない! 歴史の国の戦士達よ、俺のヒストリーシグナルを受け取ってくれ!」

そう言っつて男は宇宙空間に故郷の仲間らに異常事態を知らせるためのシグナルを出し、闇に飲み込まれた。



「うぐぐ……くそ、俺は生きてるのか？」

それからどのくらいの間が経ったかは不明だが意識を取り戻した男はズキリと痛む体を抱えながら自分の状態を確認する。あんな不可解なモノに巻き込まれながら五体満足で頭部にもなんの障害もないのはもはや奇跡といってもいいだろう。そこにふと気配を感じ少し周りを見回してみると、

「あ、あの大丈夫ですか？」

「ん？」

心配そうにこちらをのぞき込む三人の少女の顔があった。ぱっと見た限り、地球の人間と非常に似た姿をしていた。

「君たちは……何者だ？」

「ちょっと心配してんのに何よそれ、あんたこそ誰よ」

気の強そうな少女がムツとした顔で問い返してくる。『しまった』と男は思った。今の発言では敵意を持っているとまでは言わずとも相手に警戒心を持たせてしまわざるをえない。

「さ、さやかさん。この方は倒れていらしたのですからもう少し……」

「あ、いやいいんだ。すまない私の方が悪かった」

「べ、別にそんなに怒ってないけど……」

友好的な種族でよかった。男はそう思い改めて辺りを見回した。透明感のある建物によく整えられた道路や住宅街。文明はなかなか進んでいる星のようである。

「ああ、その……ひとつ聞いていいかい？」

「なにかな？」

「ここはなんてところだい？」

「ここ？ 見滝原だけど？」

「ミタキハラ……聞いたことない星だな」

お互いに“？”をかかけていると最初に自分に話しかけてきた少女がもう一度話しかけてきた。

「あの……星って？」

「ん？ いやミタキハラなんて星聞いたこともなか」

男の本目二度目の『しまった』であった。

「（文明が進んでいるからって宇宙に進出しているとは限らない……ああ〜やっちゃった。今の反応から見ると科学はまだそこまでいってないみたいだな、明らかに変なものとして見られているぞ）」

ブラックホールに飲み込まれながらも無事だったからついホッとしていたのかもしれないがそれでも今の発言は憤むべきだった。そう思っているとさやかがさらに質問してくる。

「ねえあんたどこの国の人なの？」

「俺は歴……遠い国から来た。旅をしてるんだ」

「え、じゃあ日本人じゃないの？ 私てつきり日本人だと思ってたよ」

「ニホン……ここはニホンっていうのかい？」

「ええ？ 知らなかったんかい。日本知らないってすごい田舎からきたんだあんた」

「ちょ、ちょっと待ってくれ」

「「「……?」」」

三人の少女に『何言ってるの?』という視線を向けられ男は困惑する。

「ここはミタキハラじゃないのか」

「そうですね、ここは見滝原市ですよ」

「しかし君たちは今ニホンって」

「うん、だから日本の中にある見滝原市ですよ」

男は混乱していた。自分と少女たちの会話がかみ合っていない。それは向こうも感じているようで訝しげに男を見ていた。

「あのよかつたら……交番を教えましょうか?」

「まどかー、もうさすがにそんなことしてたら遅刻しちゃうよ」

「でもこのまま放っとけないよ、なんだか困ってるみたいだし……」

「かつーやっぱりまどかは優しいなー! 私の嫁は地球上でただ一人まどか! あんただけだよ!」

「ちよ、さやかちゃん人が困っているのに……あれ？」

まどかたちがふと男を見ていると男はまるで狐にでも化かされたかのようにぼかんとしていた。

「あ、あのー」

「ここは地球なのか？」

「え？ なに？」

「あ、いや、なんでもない。俺のことは大丈夫だから行ってくれていいよ。ありがとう」

少女たちは腑に落ちないというふうな表情をしていたが男は大丈夫だからと少女たちと別れた。そしてそのあと男はぽつりと呟いた。

「どういうことだ……ここはいつたい……地球なのか？ だってら彼女たちは人間？」

## EP1 違う地球（後書き）

はい、という訳で最初からはあ？って感じでしたね。

投稿速度は週一を目指しております。

また感想はいただいてもすぐには返信できない場合があります。

それでは第一話を読んでくれてありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6777y/>

---

魔法少女まどか マギカ 歴史を見届けるもの

2011年11月20日18時27分発行